

但馬地域ビジョン2050

目次

第1章	
但馬地域ビジョン2050	2
1 但馬の未来の姿とめざす5つの地域像	
2 ビジョンの役割・展望年次・展開	
第2章	
但馬地域ビジョン2050がめざす新しい但馬の暮らし	5
【めざす地域像Ⅰ】	
世界に誇る魅力を継承し、世界に輝く新たな魅力を創造する地域	
【めざす地域像Ⅱ】	
垣根を越えた新たな人との交流・つながりを実現する地域	
【めざす地域像Ⅲ】	
多様性を認め合い、誰もが輝き夢の実現にチャレンジできる地域	
【めざす地域像Ⅳ】	
次代を担う若者や子どもたちがイキイキ育ち暮らす地域	
【めざす地域像Ⅴ】	
生活環境が充実した暮らしやすい地域	
第3章	
但馬地域ビジョン2050を実現するために	16
1 取組アイデア案(ワークショップの意見などから)	
2 実現に向けた仕組みづくり	
第4章	
参考資料	20

但馬地域ビジョン2050とは

但馬地域ビジョン2050は、全体の骨太な将来像である「全県ビジョン」の下、但馬地域の特性を踏まえ、地域住民が共有できる「但馬の未来の姿」と「地域像」などを提示するものです。



第1章

但馬地域ビジョン2050

但馬地域ビジョン（現行ビジョン）の策定から20年が経過し、人口減少・超高齢化、AIやICTなどのテクノロジーの進化、気候変動や生物多様性などの世界共通課題の深刻化により、社会は大きく変化してきています。特に、2020年に拡大した新型コロナウイルスの脅威は、否応なしに日々の暮らしや社会のあり方に影響を与えています。

このような大きな変化を迎えるなか、新但馬地域ビジョン検討委員会において、SDGsが掲げる誰一人取り残さない社会への変革を意識し、将来の夢や地域像についての住民同士の対話や小・中・高校生の声をもとにして、30年先の未来社会を見据えた地域づくりの「羅針盤」として、新たな地域ビジョン 但馬地域ビジョン2050 をつくりました。

但馬地域ビジョン2050は、「2050年但馬の未来の姿」を描いており、その実現に向けて、わたしたち住民に何ができ、何をしなければならないかを考え、但馬のよりよい未来につなげていくものです。

1 但馬の未来の姿とめざす5つの地域像

2050年 但馬の未来の姿

つながる、**たからじま**
～みんなで創る ^{つく}ワクワク但馬～

「**たからじま**」には、「但馬から（未来へ・世界へ）発信する」、「但馬カラー（色・らしさ）を大切にする」という想いを込めています

めざす5つの地域像

2050年の
但馬の未来の姿を示す
5つの地域像です。

地域像I

世界に誇る魅力を継承し、世界に輝く新たな魅力を創造する地域

地域像II

垣根を越えた新たな人との交流・つながりを実現する地域

地域像III

多様性を認め合い、誰もが輝き夢の実現にチャレンジできる地域

地域像IV

次代を担う若者や子どもたちがイキイキ育ち暮らす地域

地域像V

生活環境が充実した暮らしやすい地域

2 ビジョンの役割・展望年次・展開

/// ビジョンの役割

但馬地域ビジョン2050は、但馬の未来の姿を示し、その実現に向けて、但馬の住民、企業、行政などがともに地域づくりを積極的に進めていくための羅針盤です。

/// ビジョンの展望年次

但馬地域ビジョン2050がめざす時期は、21世紀の折り返しとなり、今の子どもたちが社会の中心として活躍する30年後の2050年としています。

/// ビジョンの展開

但馬地域ビジョン2050を但馬の住民、企業、行政と共有し、未来づくりの取組を行うことが、但馬地域ビジョン2050を活かし、地域を発展させることにつながります。

3 地域の現状・ポテンシャル

但馬は、過疎地域の増加や少子・高齢化などの課題がある一方、生物多様性に富んだ豊かな自然や多彩な食、山陰海岸ジオパークや日本遺産など世界に誇る資源に恵まれています。最近では、芸術文化観光専門職大学の開学、豊岡演劇祭の開催、コロナ禍を契機とした地方回帰と言われる移住者の増加など、未来につながる新たな動きが始まっています。

/// 人口減少、少子・高齢化

人口減少：20.0万人(2000年)→15.5万人(現在)

高齢化：高齢化率29.5%(2000年)→37.2%(現在)

若者流出：高校を卒業した子どもの80%以上が但馬外に進学・就職

/// 魅力的な食と世界に誇る観光

一次産業：但馬牛、カニ、ホタルイカ、朝倉山椒など世界に誇る豊かな食資源

二次産業：豊岡鞆、レース用バイクパーツ製造など多数のオンリーワン企業

三次産業：多くの温泉(城崎温泉、湯村温泉など)、海と山(海水浴とスキー)、竹田城跡、国内外で高い評価を受ける多彩な観光資源



但馬牛



湯村温泉



八チ高原スキー場

交通網の整備進展

北近畿豊岡自動車道・山陰近畿自動車道の整備進展、コウノトリ但馬空港の利便性向上（新型機の導入）等

人柄・住民の地域への想い

心優しくて奥ゆかしい、地域を盛り上げる活動へ積極的に参加、高い防災意識、ゴミの分別など高いリサイクル意識、当事者意識に基づく地域への自負心（シビックプライド）はやや低い 等

地域のポテンシャル、未来につながる新たな動き

豊かな自然（円山川、上山高原、山陰海岸国立公園、氷ノ山後山那岐山国定公園 等）、ユネスコ山陰海岸ジオパーク、日本遺産（銀の馬車道鉱石の道、北前船寄港地、麒麟獅子舞）、日本農業遺産（但馬牛システム）、コウノトリ野生復帰、芸術文化観光専門職大学開学、豊岡演劇祭の開催、ASAGO芸術音楽祭の開催、移住者の増加（地方回帰の動き） 等



ジオパーク(香住海岸)



神子畑選鉱場跡



芸術文化観光専門職大学

『国連2030アジェンダとSDGs』を見据えて



2015年9月の国連持続的開発サミットで「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ(2030アジェンダ)」が国際合意され、SDGs (Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)が策定されました。SDGsは17のゴール・169のターゲットから構成され、誰一人取り残さない持続可能なよりよい世界を目指す国際目標です。但馬地域ビジョン2050では、2030アジェンダとSDGsのめざす方向性を踏まえて、2050年の地域像を提示しています。



第2章

但馬地域ビジョン2050がめざす 新しい但馬の暮らし

但馬地域ビジョン2050の「但馬の未来の姿」と「めざす5つの地域像」がつむぎだす2050年の但馬の暮らしを【但馬の未来物語】で紹介します。



世界に誇る魅力を継承し、 世界に輝く新たな魅力を創造する地域

view point

実現に向けた大切な視点

❖ 豊かな自然・食など但馬の魅力強化と次代への継承

但馬には、世界に誇る海と山、四季折々の生物多様性に富んだ豊かな自然があります。古蹟、山陰道、北前船、生野銀山、竹田城跡などの歴史や文化、ジオパークや日本遺産、野生復帰が進むコウノトリなどの地域資源、但馬牛やカニをはじめとする農水産物など数々の但馬らしい地域資源があります。これらの良さを再認識し、また、新たな魅力を発見することで、これらをさらに発展させて次代につないでいきます。

❖ 地域住民と来訪者が共に楽しむ新たな地域の魅力の創造

地域のお祭りや様々な演劇・音楽などに触れる場があふれ、誰もがわくわくする体験や今までにない面白い体験ができ、知と実践の拠点である芸術文化観光専門職大学との連携による地域の進化や国際的にも注目を集める演劇祭の開催など、世界の中で輝きを放つ但馬独自の地域の魅力を創造します。

【地域住民の声】

- | | |
|--|-------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 今ある資源を全国、世界が認めるものに | <input type="checkbox"/> 演劇文化の拠点に |
| <input type="checkbox"/> 世界の中の但馬という視点が必要 | <input type="checkbox"/> 夜の観光をもっと強く |
| <input type="checkbox"/> 自信を持って地元の良さを伝えられる環境づくりが大切 | |



若者の声

- | |
|--|
| <input type="checkbox"/> 今と変わらず自然がいっぱいで豊かであってほしい |
| <input type="checkbox"/> 地域の原風景や文化が残っていてほしい |



但馬の 未来物語 I

2050年のある日 30歳 会社員

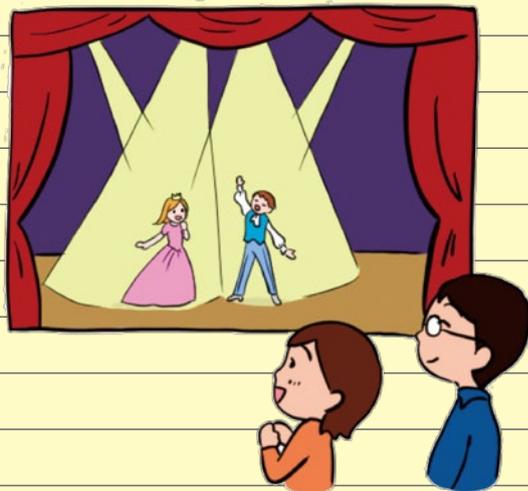
但馬に生まれ、但馬に育って約30年が経った。海、山、川で子どもの頃から家族キャンプや学校行事で幾度となくコウノトリが舞う但馬の豊かな自然の中で遊んだものだ。今ではその自然がジオパークとして定着し、有名になった。

ホタルイカ、ハタハタ、松葉ガニ、ブドウ、そして但馬牛のすき焼きなど旬の食べ物や名物が食卓に並んでいる。両親は、「食べ物が美味しいのは昔から変わらんねえ」と嬉しそうにいつも話している。

発展したと言えば、私が生まれた2021年に開学した「芸術文化観光専門職大学」では、地元だけではなく全国各地から多くの学生が学んでいる。大学を卒業した学生には、但馬で暮らし、演劇や芸術の力を活用した会社を起こしたり、観光に関わる仕事に就いた者もいる。そのおかげか、地元で働く若者も多くなった。

毎年、秋には但馬国際芸術祭が行われ、世界中から多くの人々が訪れている様子は、まるで但馬がブロードウェイになったような光景だ。今では「TAJIMA」の名は世界にとどろいている。

変わらない部分、発展した部分、様々だが、今日も私は、大好きな但馬で生きている。



※めざす地域の姿をイメージしやすいように、大切な視点ごとに1つの事例を「但馬の未来物語」としてまとめました。

垣根を越えた新たな人との 交流・つながりを実現する地域

view point

実現に向けた大切な視点

❖ 新たな交流の促進による地域の活力や持続性の向上

但馬は、地域コミュニティの結びつきが強い地域とされています。しかし、若者と高齢者、外国につながるのある人と地域住民、移住者と地域住民などで、遠慮があったり距離を置くことがあります。これらの垣根を越えていろいろな人と交流し、新たな関係を築いていくことで地域の活力や持続性を高めます。

❖ 新技術による魅力発信強化と国内外との新たな交流の促進

但馬の自然や食べ物などの地域の魅力を積極的に発信し、ICTなどの新たな技術も積極的に活用していくことで、世界中の人と物理的な距離を超えて、新たな交流を広げていきます。

【地域住民の声】

- 但馬内でのつながりを大切に
- 性差、年齢等にとらわれず、発言できる場を
- つながりがある優しい社会へ
- 多世代交流が行われる社会に
- 若者も高齢者も楽しくコミュニケーションできる場



- いろんな国の人と協力できる社会に
- 但馬の魅力が世界に知れ渡り、訪れた人と現地の人が交流出来る



但馬の 未来物語 Ⅱ

2050年のある日 高校生

「おはよう、いってらっしゃい！」朝自転車で通り過ぎる私を見かけると、近所のお年寄りや大人の人が気軽に声をかけてくれる。小さな頃から秋祭りや地域のイベントに関わってきたので、気軽に話せる大人の知り合いがたくさんいる。高校生になった今でも可愛がってくれる。

外国暮らしの長かった友達は、地域イベントで地区の一員としてバザーのお店を開いている。地域の人たちとの他愛のない会話がとても楽しいと話していた。

小学生の頃におばあちゃんの家で両親と共に引っ越してきた友達は、今ではすっかり地域のリーダー役になっている。

来月には、但馬国際芸術祭があって、私もボランティアスタッフとして協力を頼まれている。高校生の発信力を見込んで情報発信を任せられた。やるからにはたくさんのお客さんに来てもらいたいな。

VR*技術やAR*技術を使って海外からも参加できる時代になった。但馬の魅力が世界中に広まっていったらいいな。海外の友達が遊びに来たら、ちゃんと案内して楽しんでもらえるように、今のうちに地元の魅力をもっともっと知っておかなきゃ！



*VR:Virtual Reality (仮想現実)。コンピュータが作り出した空間や世界を体感できる技術
 *AR:Augmented Reality (拡張現実)。実在する風景にバーチャルの視覚情報などを重ねて表示することで、目の前にある世界を仮想的に拡張する技術

多様性を認め合い、誰もが輝き 夢の実現にチャレンジできる地域

view
point

実現に向けた大切な視点

❖ 個性が尊重され、誰もが多様性に富む暮らしを楽しみ輝ける地域

性別や年齢、障がいの有無、出身国などにかかわらず、誰にも居場所や役割があり、自分らしく生きられることが大切です。多様な個性を尊重し受け入れ、むしろ多様であることを楽しみ、誰もが活躍できるようにします。

❖ 夢をかなえるフロンティア但馬の実現

自らの夢を実現するための起業や新たな社会の仕組みづくりにチャレンジする機会がたくさんあることが地域に新たな活力を生みます。地域で誰かのチャレンジを後押しし、支える仕組みを整えることで、夢をかなえたい人たちのフロンティアとします。

【地域住民の声】

- 多様性と寛容性を大事にする地域へ
- 地方こそ起業の場にふさわしい
- 外国人への理解を深める取組が必要
- 根付いて起業する人への支援が必要
- 野心のある若者が増えていくことが持続可能な地域につながる



若者の声

- 豊岡にいながら、アメリカの会社に勤めていたい
- いろいろな人が様々なことをして楽しんでいるような町にしたい



但馬の 未来物語 Ⅱ

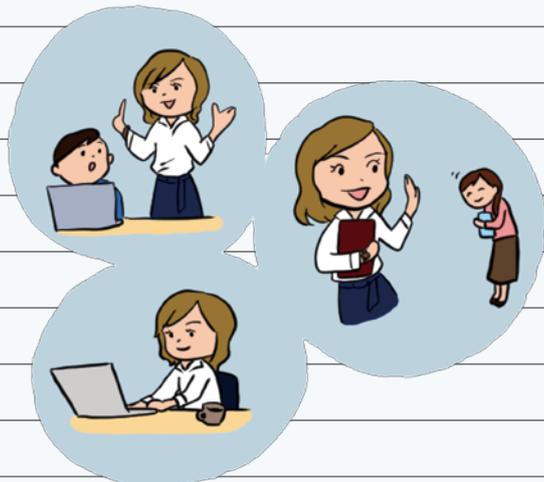
2050年のある日 女性経営者

女性起業家として会社を起こしてはや10年。女性とわざわざ前置きするのも今や昔のことになった。すでに我が社でも管理職の半数は女性が務めている。性別によらず、働きやすい職場を作るのが社長たる私の仕事だ。

私生活では子どもが生まれて1年になる。夫が面倒をみている。男性の育児休暇も当たり前の光景になった。

私も地域に入れば一人の住民。最近では町内にも様々な人が暮らしており、外国につながるのある人も都会からの移住者も多くいる。もちろん、私のように昔からこの地に住んでいる者もいる。いろんな人が当たり前で暮らすようになってから、地域が元気で明るくなったように感じている。一時は廃れた地域の秋祭りも賑やかになり、楽しい時間も増えた。

先月、近所の息子さんがバードカフェをオープンした。大学でアニマルセラピーを学んでいたそうだ。小鳥を連れて介護施設を回り、癒しを届けているらしい。起業家教育や自治体などのバックアップ体制も整っているからか、最近、若者のUターンや起業が増えている。自分の夢をかなえ、イキイキと暮らす若者を見るのは本当に嬉しいものだ。





次代を担う若者や子どもたちが イキイキ育ち暮らす地域

view
point

実現に向けた大切な視点

❖ 自ら活躍する場があり、楽しさを実感できる地域

次代を担う若者や子どもたちには、自分の考えや活動を発表し表現できる場があり、ICTを活用しながら夢や希望をかなえるための学びや進学などの選択肢に恵まれ、イキイキと暮らし、但馬で自分らしく輝いて生きる楽しさを実感できます。また、個を重視した教育の充実など地域を牽引する国際的視野に立った次世代を育てます。

❖ 子育てを地域や社会で支える子育てに優しい地域

子どもたちが健やかに育つためには、子育ての負担を分かち合う必要があります。そのため、家庭内での子育ての役割の見直し、保育や小児医療の充実など、子育てを家庭と地域がともに支える優しい但馬を実現していきます。

【地域住民の声】

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 地域での子育て支援の充実が必要 | <input type="checkbox"/> オンライン授業等により教育環境の充実を |
| <input type="checkbox"/> 若い世代が活動しやすい環境づくり | <input type="checkbox"/> 若い人たちがより一層イキイキと活躍 |
| <input type="checkbox"/> ありがとうと言える子育て社会を | <input type="checkbox"/> 行政主体で会社や男性の育児意識改革を |



- 家族が喜ぶ暮らしやすいサービスが増えてほしい
- 子育てしやすく住みやすい所に住みたい



**但馬の
未来物語
Ⅳ****2050年のある日 子育て世代の男性**

3歳と小学生と中学生。3人の子どもと妻との5人家族で毎日楽しく暮らしている。

地域では、走るのが得意な子、絵を描くのが好きな子、負けず嫌いな子、障がいのある子、それぞれが子どもたちの大切な「個性」として受け入れられ、キラキラ輝いて楽しそうに過ごしている。

来月には、但馬初の若者のためのイベントスペースがオープンする。企画も運営も若者や学生が担い、もちろん主役も若者たち。音楽や劇、フリーマーケットなど、既に多くのイベントが決まっているらしい。

進学も昔と変わった。ICTの進展で、但馬に居ながら関東の大学に在学し、高度な専門教育を受けられるようになった。近所には、アメリカのマサチューセッツ工科大学にネット留学した強者もいる。

子どもが生まれた時は、他の男性社員と同様に1年間育児休暇を取得した。育児に追われながらも、日々成長する子どもと一緒に居られるのは嬉しい時間だ。保育所やこども園には、希望すれば直ぐに入れたし、病気の子どもを預かってくれる病後児保育も充実している。地域全体で子育てを応援する仕組みが整っており、子育てなら但馬だと感じている。子育てに優しい但馬は本当にすばらしい。



生活環境が充実した 暮らしやすい地域

view point

実現に向けた大切な視点

❖ 発展を支える社会インフラの整備

めざす地域像を実現するためには、但馬の発展を支える社会インフラの整備が大切です。ICTなどの新たな技術を積極的に導入し、都市部と遜色のない教育、医療・福祉サービスが提供され、交通・通信などの社会インフラも着実に整備を進めます。自動運転車などの新たな移動手段の導入など、但馬に住む人々が暮らしやすいと感じる生活基盤の整備が必要です。

❖ 安全・安心に暮らせる基盤の整備

暮らしやすい地域となるためには、安全・安心の確保が必要です。新型コロナウイルスの感染拡大や地球温暖化による自然災害の頻発・激甚化など安全・安心を脅かす新たなリスクが出現しています。新たな感染症の発生や更なる未知のリスクにも柔軟に対応し、安全・安心に暮らすことが出来ることが大切です。

【地域住民の声】

- 次世代カーで行きたい所へ
- 住民同士が支え合える交通サービスが必要
- 但馬空港を最大限活用すべき
- 生活と健康を守るため交通インフラは重要
- 最後の最後まで元気に安心して暮らせる社会へ



- 人や車などが通しやすい歩道や道路にする
- 子どもから高齢者の方まで、
身体的にも精神的にも健康でいる



但馬の
未来物語
V

2050年のある日 高齢の女性

但馬に嫁いで40年。子どもたちも結婚し、独り立ちをしている。孫も生まれ、日々穏やかに過ごしている。ただ、持病もあり、今日は月に一度の通院の日だ。運転免許は返納したが、自動運転の路線バスやタクシーが直ぐに来てくれるので以前と変わらず通院や買い物が出来る。公民館に行けばITサポーターが居て、機械が苦手な私たちでも、診療予約をしたり、病院の先生ともやりとりできるし、処方箋も発行してもらえる。もちろん薬を受け取る方法も複数あって便利だ。

地元の病院では、都市部の専門病院の遠隔医療が受けられるので、但馬にいながら高度な医療を安心して受けることができるようになっている。

子どもは九州で暮らしているが、画面越しにいつでもつながるようになっていて、まるで一緒に暮らしているようだ。盆と正月は、昨年開通した高速鉄道を使って孫と里帰りをしてくれる。ごちそうを用意し、子どもや孫たちと食卓を囲むのが本当に楽しみだ。

過去に大規模地震があり但馬も大きく揺れたが、電力や水道などのライフラインも防災対策が進んでいて、そのため大きな被害はなかった。堤防も強化され、大きな水害が起きることもなくなった。

安心して平穏な生活が送れることに幸せを感じる今日この頃だ。



第3章

但馬地域ビジョン2050を 実現するために

2050年に「但馬の未来の姿」を実現するためには、但馬で暮らすわたしたち、但馬で活動する地域団体、但馬で仕事をする企業、それらを支援する行政が前向きに未来づくりに取り組んでいくことが重要です。

以下に住民の方が参加したワークショップで出た意見などを基に、住民・地域団体、企業、行政で取り組めることを取組アイデア案として記載しました。これらも参考にして自分には何ができるかを考え、お互いに連携・協力しながらビジョン実現に向けて取り組むことが大切です。



1 取組アイデア案

ワークショップの
意見などから

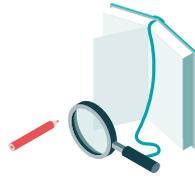


住民・地域団体

- 住民が自ら但馬の自然を知り、体験し、満喫する
- 地域で自然を守る人を育成し、生物多様性を守る
- 祭りや伝統文化を引き継ぐ仕組みをつくる
- 地域活動サークルをつくる、参加する
- 若者、女性を受け入れる環境をつくる
- 「こういう人だからこの役割」ではなく、「皆でできる」よう地域の役割を再構築する
- 地域で若者が楽しめる交流の場をつくる
- 地域で子育てを支える雰囲気をつくる
- ICT活用が苦手な人に教えあう環境をつくる

等

【あなたのアイデアは…】

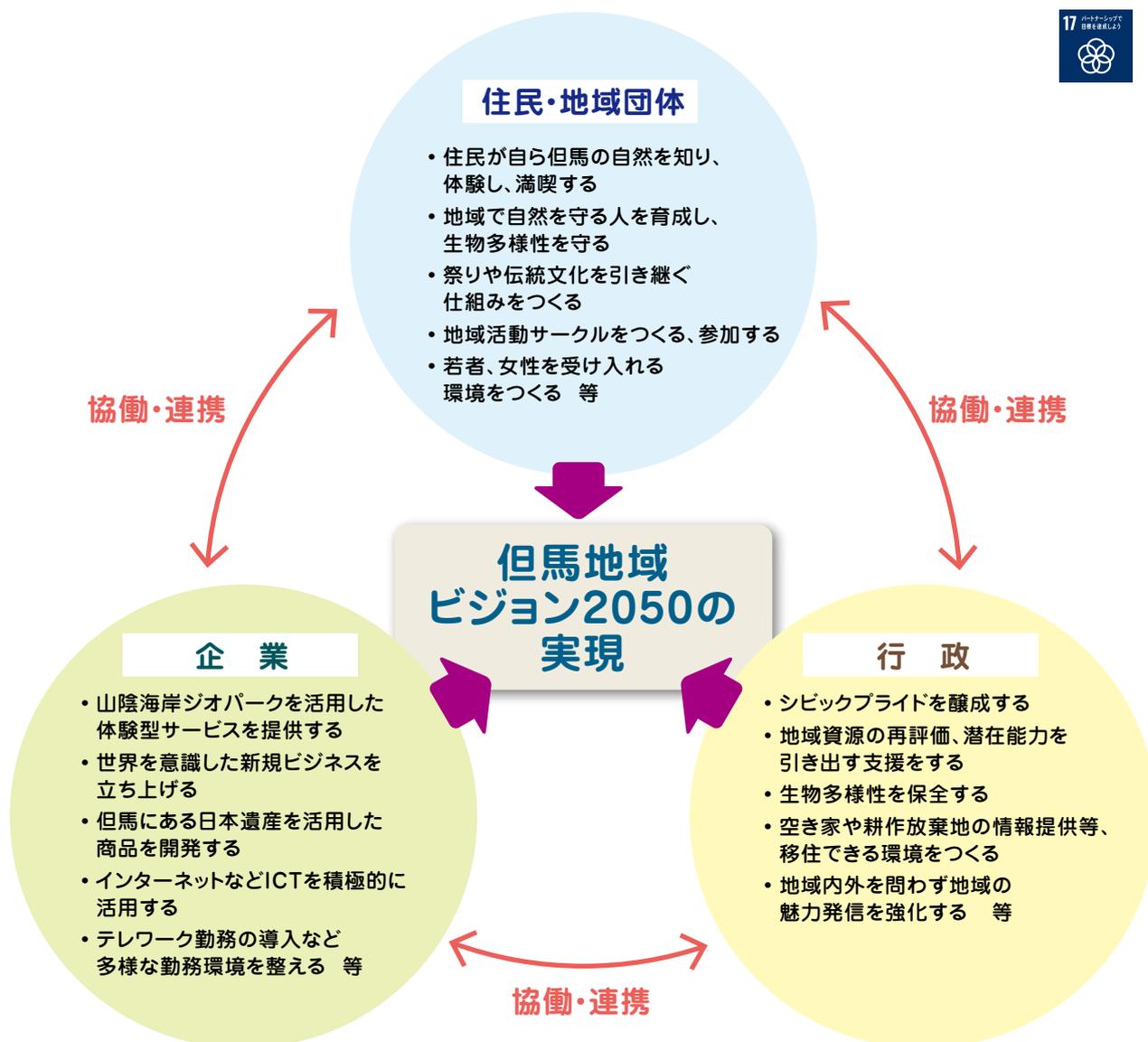


企 業

- 山陰海岸ジオパークを活用した体験型サービスを提供する
- 世界を意識した新規ビジネスを立ち上げる
- 但馬にある日本遺産を活用した商品を開発する
- インターネットなどICTを積極的に活用する
- テレワーク勤務の導入など多様な勤務環境を整える
- 高齢者等を積極的に雇用する
- 社員の子育て支援を充実させる
- 若者が求める働き方を実現するなど就業環境を整備する
- 脱炭素社会に向けた取り組みを推進する
- 鉄道、バス、航空など公共交通の利便性を高める 等

行 政

- シビックプライドを醸成する
- 地域資源の再評価、潜在能力を引き出す支援をする
- 生物多様性を保全する
- 空き家や耕作放棄地の情報提供等、移住できる環境をつくる
- 地域内外を問わず地域の魅力発信を強化する
- 役割の固定化の解消を促進する
- 起業やチャレンジを支える仕組みをつくる
- 画一的でない教育を実施する
- 子育て世代に対する制度を充実させる
- 地域に合った公共交通の整備を行う
- 最先端の「教育」「医療・福祉」「ICTの導入」を促進する 等



2 実現に向けた仕組みづくり

地域ビジョン実現に向けた行動が活発に行われるよう、県民の主体的な取組を促し、支える仕組みをつくっていくことが必要です。

このため、住民・地域団体、企業、行政が、次に示すような地域ビジョン実現に向けた体制づくりや様々な取組を実施するとともに、進捗を点検しながらビジョンを柔軟に見直します。

// 実行プログラムの策定

県は、但馬地域ビジョン2050の毎年の実行プログラムとして、「地域戦略プログラム(仮称)」を策定します。

// 地域ビジョンプロジェクト(仮称)の推進

地域ビジョンの実現に向けたプロジェクトを生み出す仕掛けとして、地域の多様な主体をつなぐプラットフォームとなる会議体を設置します。

この会議体は、地域ならではのユニークな取組を生む場となるよう参加者の自主性に委ねて運営します。

// 対話と学びの場づくり

① 対話の場づくり

今後も未来を考え続けることが大切です。地域の未来を語りあう場を様々な形で設定します。また、次代を担う若者が自分や地域の未来を考え、ビジョンを素材に地域について学び、議論し、実践する場づくりを高校・大学等と連携して進めます。

② 学びの場づくり

住民主体の取組を考える場として、小さな地域単位での多様な学びの場づくりを支援します。また、対話と学びを通じて住民主体の新しい取組が立ち上がることを促し、市町と歩調を合わせて支援します。

③ 取組の情報発信

手話や音声なども用いた多様な媒体により、ビジョンの実現に向けた取組の情報をわかりやすい形で発信します。

// 推進状況の見える化

① 毎年度の点検評価(但馬力指標の改訂)

県では、現行但馬地域ビジョンの進捗状況を測るため、但馬の魅力や豊かさ、これから但馬が伸ばすべきところなどを但馬地域の総合力「但馬力」と定義し、各種調査や統計結果を活用し、但馬力指標を作成しています。

但馬地域ビジョン2050についても、5つの地域像に応じた但馬力指標に改訂し、新たなビジョンの進捗状況を取りまとめて公表します。

② 柔軟な対応

社会情勢の変化などの状況に応じて、地域ビジョンを柔軟に見直します。





第4章

参考資料

1 但馬地域の現状

- 1-1 但馬地域ビジョン策定後の地域の動きと状況変化
- 1-2 データで見る但馬の現状

2 住民の声

- 2-1 未来の但馬をつくるワークショップ(地域デザイン会議)
- 2-2 地域未来フォーラム(たじま夢フェスタ)
- 2-3 ビジョンを語る会
- 2-4 学生アンケート
- 2-5 個別ヒアリング

3 新但馬地域ビジョン検討委員会

参考資料を含む「但馬地域ビジョン2050」(本体)は、
こちらからQRコードをスキャンするか、
『但馬地域ビジョン2050』で検索してください



